



# profile

松井先生のシーズ集



まつい しょうた  
准教授 松井 翔太

所 属 木更津工業高等専門学校  
機械工学科

普通高校卒業後、同志社大学 理工学部 エネルギー機械工学科に進学。その後、大和歯車製作株式会社へ入社。当時、社内で雌ねじ加工時にトラブルが多く起きており、「トラブルを解決したい」という想いから、自ら大学での研究を申し出て、平日は会社で仕事をしながら、土日に大学で研修員として「スレッドミルを用いた雌ねじ切り加工」の研究に励んだ。体力的には大変な時もあったが、それ以上に恩師や研究室の仲間との時間が楽しく、負担に感じることはなかった。入社5年が経つ頃、退社を決め、博士（後期）課程へ進学。そこでの非常勤講師、研究室での学生指導、企業での勤務経験を経て、「自分は人に教える事が好き」だと気づき、教員を志す。自身でも、就職後に博士（後期）課程へ進学する人は珍しいと思っているが、原動力は常に「恩師と仲間」の存在。木更津高専機械工学科に赴任後も、そんな仲間づくりを目指し、研究室の学生とピザパーティーなど開いている。



独立行政法人国立高等専門学校機構

木更津工業高等専門学校

National Institute of Technology, Kisarazu College

## 学生の成長が自分以上の喜びに

修士でも出せるか分からない難易度の高い論文を研究室の学生が投稿し、採択されたことです。指導教員の立場で初めて投稿した論文なので、自身が採択された時とはまた違った嬉しさを感じました。学生指導では本人のやる気をそがないよう心がけています。無理やり言われてやるのは1番モチベーションが下がるので、数パーセントでも面白さが見つけられるよう切り口を一緒に探しています。



## 高専の同僚と切磋琢磨

木更津高専には官舎があり、食事や飲みに行く中で他学科の教員との交流機会が自然と生まれています。今どんな研究をしているのか、自分の夢は何か、論文・科研費の進捗など、様々な話をできることが刺激となり、自身のモチベーションアップに繋がっています。今まで教員で面白くない方は見たことがありません。日々の交流から、今後異分野融合の研究にも繋がったらいいと思います。



## “面白い”が口癖です

学内の仕組みづくりに関わるプロジェクトに関わった際、新しいシステムの導入に反対意見が出ました。すぐに説得を促すこともできますが、正直それだけではもったいない。自分と異なる意見からは「そんな捉え方もできるのか」と新しい発見の連続で非常に面白いです。これは会社勤務時の学びですが、どんな意見も一度受け止め、双方が納得する方法を検討するようにしています。



## お問合せ先

T 松井翔太\_木更津

M mails@matsui@kisarazu.ac.jp

T 0438-30-4079

人生・教育・研究の面白いは、